

図書館だより

秋田大学附属図書館

附属図書館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

医学部分館ホームページ

<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>

菅江真澄の道を通って 16 白瀑神社への参道

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏 画

八森山の麓におわしある阿遮羅明王の鳥井見へたり。

まうでまく田の中の道をしばし行て、御前近くうすらひとけ流る浄き山川あり。

.....。冬枯れの中に松杉生ひて神さひる村に寺あり。

(雪の道奥 雪の出羽路)

目次

「巻頭言」 文献検索の変遷	杉山 俊博	2
秋田大学学術情報リポジトリについて		3
MYLIBRARY登録はもうお済みですか?		6
シリーズ 心に残る一冊 (37) "Terrifying Love"	米山奈奈子	8
著書紹介 "読みにくい名前はなぜ増えたか"	佐藤 稔	9
"おりん口伝" を知ってますか?	小林 清	10
研修報告/お知らせ		11
図書館カレンダー/編集後記		12

文献検索の変遷

附属図書館医学部分館長 杉山俊博



本年2月から附属図書館医学部分館長を拝命しました。それ以前から附属図書館委員会のメンバーとして電子ジャーナル化に取り組んできました。また、最近医学部分館でメディカルオンラインを導入しました。今日のコンピュータネットワークによる図書館システムは研究者にとって本当に便利になったと思います。

それで、私の大学院時代の文献検索について述べてみたいと思います。当時はA5版のLife Scienceに関する国際雑誌の目次だけが載っている『Current Contents』が唯一の情報源でした。毎週1冊、教授から順に回ってきますので、週末の2時間くらいは文献検索に時間を費やすことになります。

1冊当たり興味を引く論文が大体10～15編見つかります。まずそれぞれの論文の全ての項目を2枚のパンチカード（南江堂製）の間にカーボン紙を挟んでオリベティーの電動タイプライターで打ち込みます。次に3隅に著者名（複数）、キーワード（複数）、発行年をパンチします。必要な文献はこのパンチカードを見ながら図書館でコピーし、論文とパンチカードに通し番号を付けます。2枚のパンチカードは著者名とキーワードに二分してファイルし、一方コピーした論文は通し番号順にファイルします。従って必要なコピーした論文はパンチカードをソーター

と呼ばれていた金串のようなものを穴に差し込むと直ちに検索できます。

BIOSISが登場するまで約15年間続けました。その結果、約8000枚（実際はその2倍）のパンチカードと約3000編の文献コピーがキャビネットに収まっています。パンチカードで検索する利点は、通し番号が付けてありますので、コピーした論文が直ちに取り出せること、同一著者名やキーワードで一連の論文がすぐに検索できること、そしてカードを作成することで論文の内容が記憶に残りやすいことなどが挙げられます。

今では、「PubMed」、「医中誌Web」、「メディカルオンライン」などインターネットで優れた文献検索データベースを部屋でいながらにして利用でき、しかもコピーも可能ですので、図書館にわざわざ出向かなくてもすみます。その反面、全ての雑誌のタイトルを見て、研究と関係の薄い分野のコピーをする事も少なくなりました。

最近、情報量が膨大になり、オンライン検索の便利さを実感しています。図書館では、学習や研究に役立つ文献検索データベースの提供に努めています。結局、最新の検索システムの長所と短所を理解してうまく利用することが大切であると思います。

（すぎやま としひろ 医学部構造機能医学講座 教授）

秋田大学学術情報リポジトリ

- ・今年度内に設置・運用を開始します。
- ・本学関係者の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

● 学術情報リポジトリとは？

大学等の学術機関で生成される学術研究・教育成果（学術雑誌論文、紀要論文、学会・シンポジウム発表資料、研究報告書類、学位論文、刊行図書、授業資料、作成教材など）を電子的形体で収集・蓄積し、恒久的に保存するとともに、インターネットでその情報と本文を無償公開することを目的としたシステム。

リポジトリ (repository) は本来、保管場所や倉庫を意味しますが、転じて学術機関の電子書庫として機関リポジトリ (Institutional Repository : IR) と称されるようになっていきます。

機関リポジトリは、大学によっては学術成果コレクション、学術情報発信システム …etc.と色々な名称で呼ばれています。またHUSCAP：北大、CURATOR：千葉大、KURA：金沢大、TeaPot：お茶の水女子大…など愛称を使用している大学もあります。

● 世界では日本では

世界では米国、欧州を中心に大学、研究機関など900以上で運用中。国内では平成17年度から全国の大学で設置が始まり、現在60以上の大学、研究機関で運用中（試験中含む）

（参照） <http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html>

● 構築の目的は？

1. 本学で生成される研究・教育成果を電子化し一元的に集積、保存、公開することにより、散在する学術成果の情報共有と内外への効果的な発信、流通促進を図り、学術水準の向上に寄与する。
2. 本学の研究・教育成果の社会還元や大学としての説明責任を果たし、地域の発展に寄与する。
3. 学術コミュニティーの不全への対抗の手段（Open Access運動の一環）として：学術雑誌の現状 -高騰化と購読数減少の悪循環、それに起因する未購読誌の増加等で自身の論文収録誌や読みたい論文が読めない（学術雑誌本来の目的である学術情報の流通が阻害されている：学術コミュニケーションの不全） - に対して、論文を無償で誰もが利用できるようにするシステムを構築し、この運動が世界的に普及することにより状況の改善を図り、新たな出版モデルの創出を図る。

*Open Accessについては下記参照

<http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html>

● 構築による効果は？

1. 新たな研究・教育成果の発信、保存の場ができる。
2. 他大学リポジトリも含めたコンテンツ充実により、未購読学術雑誌論文も本文が読めるものが増え、学外文献申込の手間が省けるなど情報入手の迅速化が期待できる。
3. 研究教育活動のショーウィンドーとして成果が一覧でき、ネット公開による効率的な情報発信で、内外からの可視性が高まり、教員や大学の認知度が向上する。
4. Google等の一般の検索エンジンからも検索可能となり、論文の引用度も上昇する。

● 誰が登録・公開できるの？

1. 本学に在籍、または在籍したことのある教職員・学生。
2. その他、図書館長が認めた者。

● 著作権処理はどうする？

1. 論文等の電子化（複製権）とインターネットでの公開（公衆送信権）について著作権者からの許諾が必要ですが、著作権者が登録申請をした時点で許諾をいただいたものとします。（詳細は運用指針で取り決めます。なお著作権自体は移転いたしません）

※紀要類論文は（投稿規程等で定めていない限り）著者に著作権があります。

※紀要類は学部や編集委員会で今後の刊行分のリポジトリ登録（電子化・公開）を取り決めていただくのと個々の著者による登録申請は不要になります。

※研究報告書、学位論文等も基本的には著者が著作権を保有しています。

2. 学術雑誌論文については外国主要出版社や学会では、出版社版（実際に出版された状態と同じレイアウトのもの）は原則として出版社・学会にあります。ご自身所有の同論文の最終稿：著者版（査読、校正終了後、出版社に引き渡した状態のもので、出版社版とはレイアウトが異なるが本文自体は同じ）については殆どの出版社・学会が著者所属機関のリポジトリへの登録を認めています。（このような雑誌をGreen Journalと呼びます）

外国雑誌・学会・出版社の方針はSHERPA/RoMEOで調べられます。

⇒ <http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>

3. 日本の学会でも徐々にこの動きが広まっていますが、ご自身の学術雑誌論文が、リポジトリに登録出来るかどうかはSCPJ（学協会著作権ポリシーデータベース）のページで学会、各雑誌別に方針が確認できます。

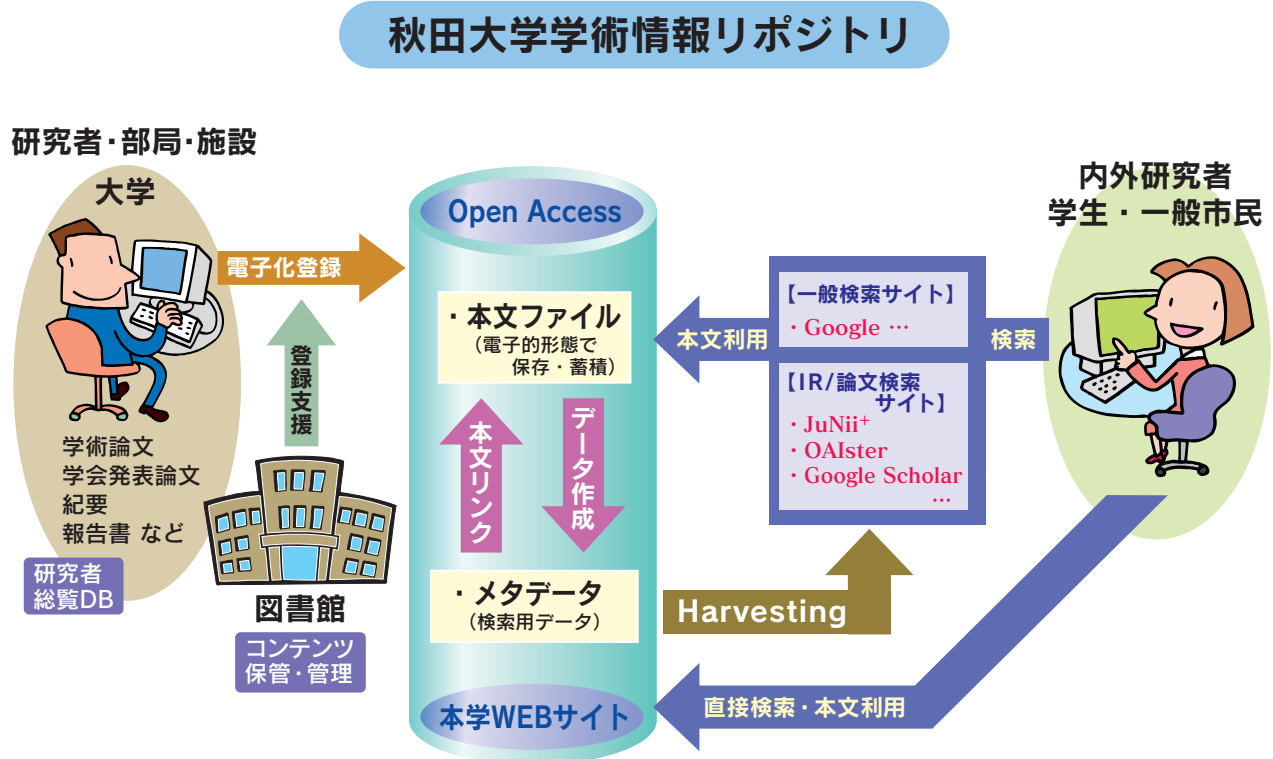
⇒ <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/>

※確認できない場合は図書館で調査いたします。

● 登録・公開の手順は？

1. 初期コンテンツ蓄積のため、各教員等に登録依頼文書を送付します。
(登録申請書、運用指針、登録手順案内等含む)
2. 申請書に登録希望の論文等(コンテンツ)の情報を記入し、返送ください。
※共著者等がいれば同意を得た上で、代表の方がご記入ください。
※コンテンツの所有状況(電子ファイルor冊子等)もお知らせください。
3. コンテンツの著作権等を確認のうえ、登録の可否について図書館担当者から連絡いたします。
4. メール添付ファイルあるいは学内便でコンテンツをお送りください。
5. コンテンツ到着後、メタデータ(検索用データ)を作成、本文とともにリポジトリ用サーバに登録します。⇒本学リポジトリサイト画面から検索、本文利用可能になります。なお冊子(紙)状態のものは図書館で電子化・登録いたします。
6. メタデータが各種検索エンジンにハーヴェスティング(Harvesting)され、検索、本文利用可能になります。
※リポジトリ運用開始後は、WEBフォームによる登録が出来る予定です。
教員・学生等の皆さんの積極的な登録をお願いいたします。

【概念図】



— My Library登録はもうお済みですか？ —

図書館新システム[My Library]とは、図書館ホームページ内に自分専用のページを持つことで、学習や研究に役立つさまざまな機能をご利用いただけるWeb図書館です。自宅PCからも利用できます。みなさんどうぞ奮って登録、ご活用ください！

My Libraryでできること

- 他大学等への文献複写・図書借用の申込および状況確認
- 学内蔵書検索結果のブックマーク
- キーワード登録による新着図書案内
- 借用中図書の返却期限等の確認・延長（延長は3回まで）
- 借用中図書が返却期限を過ぎた場合のメールによる連絡
- 貸出中図書への予約と、貸出可能時のメールによる連絡
- 携帯電話での蔵書検索・予約 etc…

アクセス方法 附属図書館ホームページからアクセスしてください。

附属図書館ホームページ
<http://www.lib.akita-u.ac.jp>

My Libraryログイン

ログイン方法 総合情報処理センター利用ID・パスワードと同一です。

※平成 19 年 3 月に総合情報処理センターシステムが更新されましたので、パスワードの再登録が必要です。

※図書館内PCを利用する場合も総合情報処理センター利用ID・パスワードでのログインが必要です。

※教職員はAU-CIS（キャンパス共通システム）ID・パスワードでのログインとなります。

秋田大学附属図書館

My Library

お知らせ
お知らせはありません。

新着情報
条件が設定されていません。

新着図書の詳細

入手待ちの資料
入手待ちの資料はありません。

借用中の資料
3件の資料を借りています。 [詳細を見る](#)

マイフォルダ
登録されているフォルダはありません。フォルダへから行きます。

マイフォルダ管理

操作メニュー

依頼

- 文献の複写(私費)
- 資料の借用(私費)

学外への文献依頼・資料借用申込

返却期限を過ぎた資料があります。至急返却してください。延滞資料を返却するまでは、新規の貸し出しができないことがあります。

1. インターネット時代の協創設計
綾日天彦著 共立出版、1996(情報フロンティアシリーズ12) 資料ID: 119603568, 貸出中です。延長回数: 0回
🔴 すぐに返却してください。返却期限は2007/03/21でした。

複写依頼した資料一覧

マイライブラリ > 複写依頼した資料一覧

到着済みの資料 全1件

1 中井 大介 庄司 一子 "中学生の物語に対する信憑感とその材料金: 150円, 申込番号: C000001
🟢 2007/03/02 に到着しました。

依頼中の資料 全2件

1 岡本 満喜子 神田 直邦 石田 敏郎 "交通事故事例に関する... 申込番号: C000003
2 萩原 康仁 大内 善広 "通信簿の評定結果の持つ信憑感に及ぼす... 申込番号: C000002

資料の状況

貸出期間の延長

予約が入っている場合は延長できません。

1. ウイルス選治
横上昭典著 共立出版、1996(情報フロンティアシリーズ13) 資料ID: 119603569, 貸出中です。延長回数: 0回
この資料は予約されているため、貸出期間の延長はできません。2007/03/23までに返却してください。

2. インターネット時代の協創設計
綾日天彦著 共立出版、1996(情報フロンティアシリーズ12) 資料ID: 119603568, 貸出中です。延長回数: 0回
2007/03/25までに返却してください。

3. パソコンでつぎあう
大野 隆 604 部著 共立出版、1996(情報フロンティアシリーズ11) 資料ID: 119603567, 貸出中です。延長回数: 0回
2007/03/30までに返却してください。

Copyright © 1998-2007 RICOH COMPANY, LTD. All Rights Reserved.

注意

My Libraryを利用後は必ずログアウトしてください。特に不特定多数の方が利用するPCでログインした場合は貸出情報等が他人に覗かれる危険性があります。
画面右上 [ログアウト](#) ボタンをクリックすることによりログアウトします。

登録方法

1) メールによる登録 (PC・携帯どちらでも可)

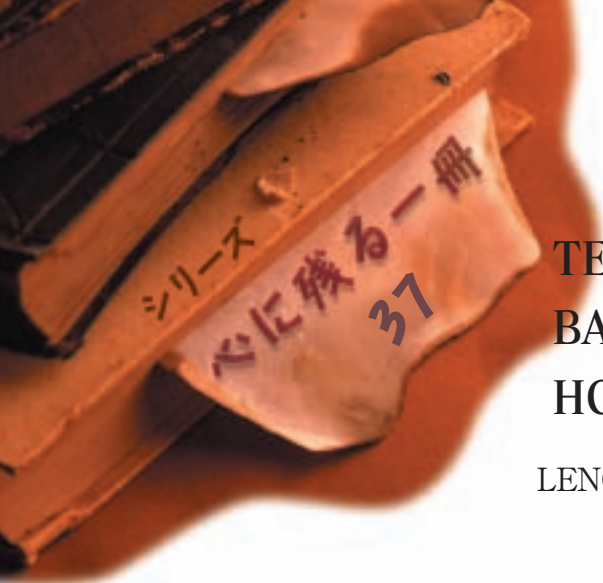
件名: 学生証バーコード番号 (a除き9桁) 本文: 名前・電話番号
を入力して、下記アドレスまで送信してください。

○教育文化学部・工学資源学部学生: adt@lib.akita-u.ac.jp

○医学部学生: aib@lib.akita-u.ac.jp

2) 用紙による登録

それぞれの図書館カウンターにある所定の申請用紙に必要な事項を記入の上、提出してください。



TERRIFYING LOVE, WHY BATTERED WOMEN KILL AND HOW SOCIETY RESPONDS

LENORE E. WALKER, Harper & Row, 1989

米山奈奈子

私は、大学を卒業後自治体に就職し、保健師として地域保健活動に関わってきた。大学の学部学生時代は決して優等生ではなかったし、英語はどちらかというと苦手だった。ところが、心理学や精神病理学を学ぶために1989年に短期海外研修(通訳付)へ初めて参加する機会を得た。

訪問先のアメリカ合衆国カリフォルニア州では、被虐待児のケアを行っている施設や相談機関、医療機関、DV(ドメスティック・バイオレンス)被害者支援を行う民間シェルターなどを視察し、それぞれのスタッフと質疑をかわし、また家族療法専門家の講義を受けるチャンスも得た。こうした経験から、私は自らの英語力をもっと向上させるべく、努力し始めた。英語力を高めることで、リアルタイムで情報が得られ、直接交流ができると思ったからだ。その後、何度か訪れた研修途上で買い求めたのがこの本である。

日本語訳では『恐るべき愛』とでもなるだろうか(日本語訳未刊)。著者のレノア・ウォーカーはコロラド州でフェミニスト臨床心理士としてDV被害女性の相談支援活動を行っている。1995年来日し東京で講演をしているが、私は残念ながら都

合がつかず、彼女の講演を聴くことができなかった。

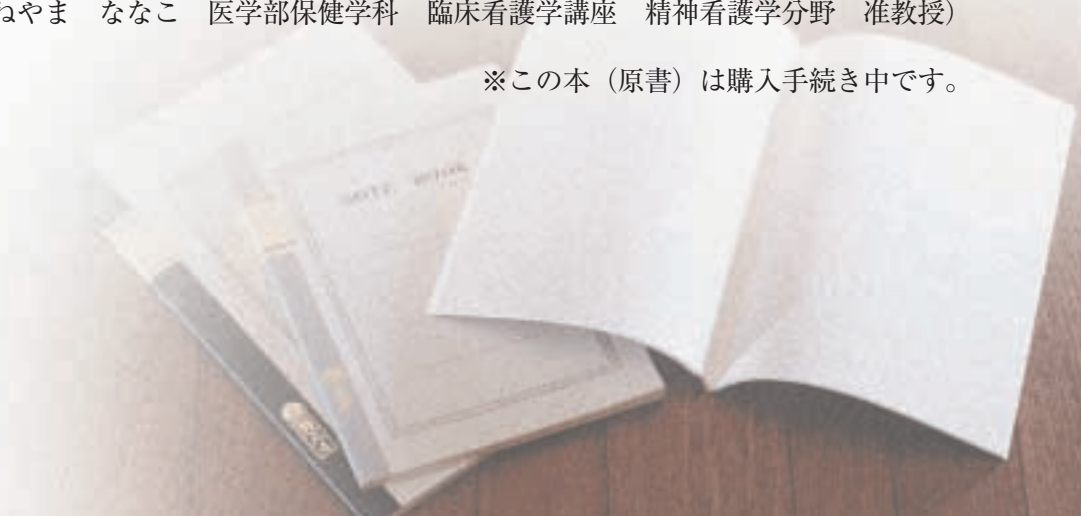
彼女はこの本の中で、相談を受けてきたDV被害女性の経験や、刑務所に収監されている殺人犯女性の経験を代弁して、DVの存在を否認し対策を講じることを避けてきた地域社会の責任を厳しく問うている。彼女が語る一人ひとりの物語は、すべて実在モデルがいるのだ。読み進むにつれて、英文であることが苦にならなくなり、私は彼女が語るシーンが想像できるようになった。

一人ひとりの声は『些細なこと』かもしれないが、実はそれが多勢の声になると『政治的なこと』になる。そして、それは他人事ではなく、私たち自身の責任にもつながる。改めて、日本におけるDV被害者支援に関して、私ができることは何かと深く考えさせられた本であった。

こうしたことから、学生さんには、自分の興味のある本の原書に触れることをお薦めするが、私がそうであったように、『機が熟すとき』が来るまでは、世界が広がるチャンスはやってこないのかもしれない。それでも、興味や関心を持ち学び続けるならば、チャンスは必ずやってくると思う。

(よねやま ななこ 医学部保健学科 臨床看護学講座 精神看護学分野 准教授)

※この本(原書)は購入手続き中です。



『読みにくい名前はなぜ増えたか』

佐藤 稔 著

(吉川弘文館 歴史文化ライブラリー236 2007年8月発行 193頁 1785円)

身の回りの人名が読めないと実感することが多くなった。昔だって難読の名前は少なからずあったのだが、昨今の人名の読みにくさはそれとは事情が異なる。

かつては「名乗り字」として、特別の訓を用いることが行われ、それなりの「教養」が求められたり、名乗りのための字引を利用したりしていた。今は、欧米風の音感に惹かれたり、漢字の伝統的音訓を無視した奇抜な「目立ちたがり」の命名が簇出している。おまけに、命名用のガイドブックの著者がもっぱら「運勢鑑定家」と来ている。

こうした事態の元凶は、①日本人の軽薄化、②国語審議会の無責任・無能、③国語教育の非力に求められよう。本書はこのことをできるだけ「奥歯に物の挟まった言い方で」書いたものである。なにしろ、

名前の問題はデリケートで、直接誰かを非難するわけに行かないからである。関心をお持ちの方にはぜひご一読頂きたいものと思う。



(文：さとう みのる 教育文化学部 日本・アジア文化講座 教授)
※この本は本館秋田大学コーナーほかにあります。(288.12 || Sa85)

本学教員等著作寄贈図書

(平成19年3月～平成19年8月受入れ)

本学教員が著し、寄贈されたものです。ありがとうございます。

書名	著者名(敬省略)	出版社	出版年
世界一おいしい火山の本：チョコやココアで噴火実験(自然とともに)	林信太郎著	小峰書店	2006
授与動詞の対照方言学的研究(ひつじ研究叢書:言語編;第48巻)	日高水穂著	ひつじ書房	2007
読みにくい名前はなぜ増えたか(歴史文化ライブラリー236)	佐藤 稔著	吉川弘文館	2007

* 図書館では本学教員の著作物(単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文)を、積極的に収集し、利用に供しています。出版の折には御寄贈くださいますようお願いいたします。

「おりん口伝」を知っていますか？

小林 清

「お母！お父やざがねど」「まゆってもらえ」
「ご性焼げ（ごしゃげ）」…

この本にはこのような秋田弁がいっぱい出てくる。あなたが秋田県人ならこれを読んでみなさい。あなたの知っている大仙市協和にある「メインロード荒川」が小説の舞台です。また、今はほとんど使われていない年配者にとってはなつかしい秋田弁が出てくる小説です。

あなたが女性ならこれを読んでみなさい。女性が主人公の女の一生の物語です。暗黒の時代の中で一生懸命生きて子供を育てていく物語です。

あなたが鉱山や地質学に興味のある学生ならこれを読んでみなさい。いまはその一部が観光用になっているが、当時地方でも大きな鉱山であり銅をはじめ多くを産出していた。また、鉱山関係者も数千人もいたという…。

「おりん口伝」は秋田県大仙市協和荒川にあった荒川鉱山を舞台に、上淀川から嫁いできた「おりん」という女の物語で、作者の松田解子の母がモデルといわれている。

嫁いできた「おりん」と夫や彼女に関わる人間と、貧しい中にも一生懸命生きていく女として、妻として、母としての姿、当時の世相と鉱山の暮らしなどを

を描いている。

今では想像もつかない当時の生活と、物のあふれている現在の生活を比べてみて反省するのもいいのではないか。少なからずもこのような過去があったから今があるのである。

後半（「おりん母子伝」、「桃割れのタイプスト」）は、おりん母子の物語で教育者を目ざしてがんばるおりんの娘「ひろ」の姿が、作者とダブって見えてくる。

ちなみに今年1月から秋田魁新報に毎週土曜日に「気骨の作家・松田解子 100年の軌跡」という題で、取材記事が連載されているので読んでみてはどうか。

ともかくも今は当時の賑わいを偲ぶものはないが、旧道には当時の写真パネルと説明文のある支柱が道端にひっそりと建てられている。しかし今は、ほとんど通る車もなく荒れている。

僅かに小学校跡の広場に記念碑があるが、訪れる人もない。私も昨年久しぶりに訪ねたが、今は近くに出来たモーターサイクル場のバイクの音だけが、廃坑となった山々に響いていた。

あなたも小説を読み終えたら一度当時を偲びながらここを散策でもいかがですか。

（こばやし きよし 附属図書館事務長補佐）

※この本は 本館 秋田県コーナー（918.68 || Ma94 || v.1）にあります。



平成19年度目録システム地域講習会(図書コース)を受講して

図書情報係 碓子ひろみ

5/30～6/1までの三日間、東北大学附属図書館で開かれた標記講習会を受講してきました。

この「目録システム」とは、国立情報学研究所がwww上で提供しているWebcatやWebcat Plusの基となっている「目録所在情報データ・ベース」を構築するためのシステムで、現在、所蔵登録件数が9000万件を超えています。

必要な資料が秋田大学のOPACで見つからない場合には、こちらでも検索してみたらいかがでしょうか？(当館のホームページからもアクセスできます。)

ここでは、参加館によるオンライン共同分担入力方式をとっているため、品質維持のため、共通の理解が必要になってきます。そういった意味からもこ

の講習会では、講義のあと、様々なパターンの課題にそった実習が行われたので、より実践的でわかり易いものでした。また、毎日行われたセルフチェックテストは、得点や正解率が即座に出るという優れたもので、久々の緊張感を覚えました。

二日目の講義終了後には、東北大学のご好意により、普段立ち入ることのできない貴重書コーナーをはじめ、広い館内を案内して頂きました。また、他大学の図書館の方々と情報交換ができたことも、大きな収穫でした。

最後に、お忙しい中お世話頂いた関係者の方々に、お礼申し上げます。

(いかりこ ひろみ)

お知らせ

平成19年度

秋田大学附属図書館特別企画

2007年10月20日(土) 10:00～17:00

Contents

1. 講演会 13:00～14:00 (聴講無料)

「スポーツ医学の新たなる展開」 — 病院からフィールドへ —

講師：皆川洋至 医学部附属病院整形外科講師

- * あなたの骨密度は?・・・骨密度測定ができます!・・・
- * スポーツ医学関連資料の展示もあります。

2. 特別展示 10:00～17:00

「北方教育資料」 — 秋田で生まれた生活綴り方教育 —

* 昭和初期の小学校における生活綴り方文集の展示です。

情報リテラシー授業(平成19年度後期)「情報と知識・技術B」

* 図書館が担当する“インターネット時代の適切な学術情報入手と活用法”のスキルアップを学ぶものです。

期間：平成19年11月28日～20年1月23日の毎週水曜日

時間：1～2時限 (8:50～10:20)

場所：総合情報処理センター 第1端末室

定員：50名

* 多くの学生の皆さんの受講を期待します!!

平成19年度秋田大学附属図書館開館カレンダー(後期)

本館

10月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

10/1 後期開始

11月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

12/26 冬季休業開始

1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1/8 冬季休業終了
1/19・20 センター試験

2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

2/23 春季休業開始
2/25・26 前期試験

3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

3/12 後期試験

date 平日 8:30~21:00 **date** 土曜・日曜・休日 10:00~17:00 **date** 長期休業期間等 8:30~17:00 **date** 休館

分館

10月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

12/22 冬季休業開始(医学科)
12/26 冬季休業開始(保健学科)

1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1/6 冬季休業終了(医学科)
1/8 冬季休業終了(保健学科)

2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

2/23 春季休業開始(保健学科)

3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

3/8 春季休業開始(医学科)

編集後記

74年ぶりに国内最高気温が更新された暑い夏でしたが、ようやく涼風が心地よい季節を迎えています。今年の秋、未知の世界を読書という手段で訪ねてみませんか。図書館も積極的にご利用ください。爽り豊かな秋となりますように。

図書館だより 第65号

2007年10月1日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会
 発行者 秋田大学附属図書館
 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
 TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052
 FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252
 E-mail: 本館 riyos@lib.akita-u.ac.jp
 分館 ibun@lib.akita-u.ac.jp